

藤村いろは歌留多

島崎藤村

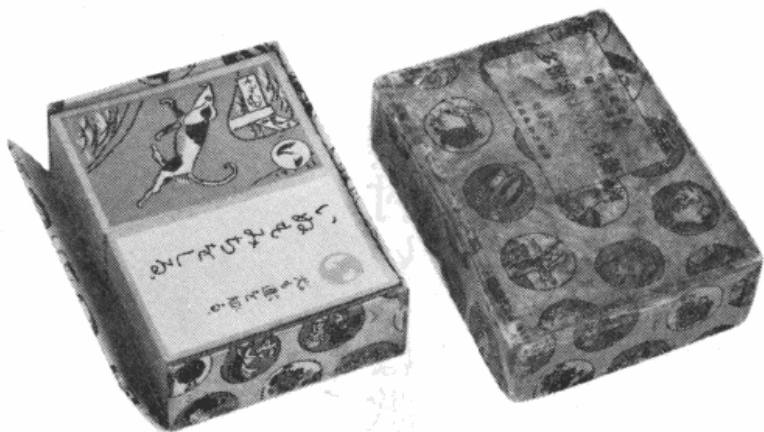
青空文庫

「歌留多」の函

「歌留多」のなかに折りたたみで入っていたパンフレット

このいろはがるた

長いこと私は民話を書くことを思ひ立つて、未だにそれを果さずに見ますが、このいろはがるたもそんな心持から作つて見ました。私の『幼きものに』や、『ふるさと』や、『をさなものがたり』は、形こそ童話であります、その心持は民話に近いやうに、子供のために作つたこのいろはがるたも矢張それに近いものです。子供よ、來て遊べ、と言つて、父母も一緒に遊んで下さい。



い
犬も道を知る。

ろ
櫓は深い水、棹は浅い水。

は
鼻から提灯。

に
鶏のおはやうも三度。

ほ 星まで高く飛べ。

へ 臍も身の内。

と 虎の皮自慢。

ち ちひさい時からあるものは、大きくなつてもある。

り 林檎に目鼻。

犬も道を知る。

いぬもみちをしる。



ぬ 沼に住む鯰、沼に遊ぶ鯰。

る 瑠璃や駒鳥をきけば父母がこひしい。

を 丘のやうに古い。

わ わからずやにつける薬はないか。

か 賢い鴉は黒く化粧する。

よ 好いお客は後から。



水。 捨は深い水、樽は深い

ろはふかいみづ、さ
をはあさいみづ。



た 竹のことは竹に習へ。

れ 零點か百點か。

そ 空飛ぶ鳥も土を忘れず。

つ つんぽに内證話。

ね 猫には手毬。



鼻はなから提灯ていとう

はなからちやう
ちん。



な なんにも知らない馬鹿、何もかも知つてゐる馬鹿。

ら 蠟燭は靜かに燃え。

む 胸を開け。

う 瓜は四つにも輪にも切られる。

ゐ り猪の尻もちつき。

の のんきに根氣。



鶏のおはやうも三度

にはとりのおはや
うもさんど。



お 玩具は野にも畠にも。

く 草も餅になる。

や 藪から棒。

ま 誠實は残る。

け 決心一つ。



星^{ほし}まで高く飛^とべ

ほしまでたかく
とべ



ふ 不思議な御縁。

こ 獨樂の澄む時、心棒の
る時。

え 枝葉より根元。

て 手習も三年。

あ 鸚鵡の口に戸はたてられず。

さ 里芋の山盛り。



贈も身の内。

へそもみのうち。



き 菊の風情、朝顔の心。

ゆ 雪がふれば犬でもうれしい。

め めづらしからう、面白からう。

み 耳を貸して手を借りられ。

し 仕合せの明後日。



虎の皮自慢

とらのかはじまん。



ゑ
笑顔は光る。

ひ
日和に足駄ばき。

も
持ちつ持たれつ。

せ
蝉はぬけがらを忘る。

す
西瓜丸裸。



ちひさい時からあるものは、
大きくなつてもある。

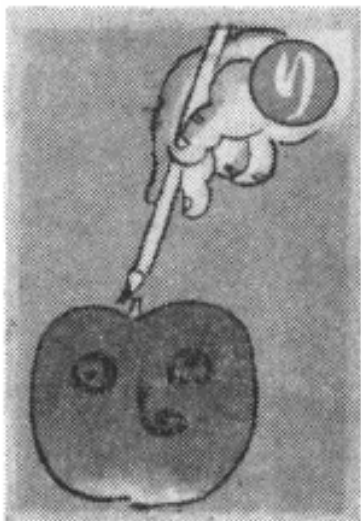
ちひさいときからあ
るものは、おほきくな
つてもある。





林檎に目鼻。

りんごにめはな。





沼に住む鯰、沼に遊ぶ
鯰

ぬまにすむなまづ、
ぬまにあそぶなまづ。



る

環^わ境^かや^あ羽^は鳥^とを^とま^まさ^さけ^けば
父^{ちち}母^{はは}が^がこ^こひ^ひしい。

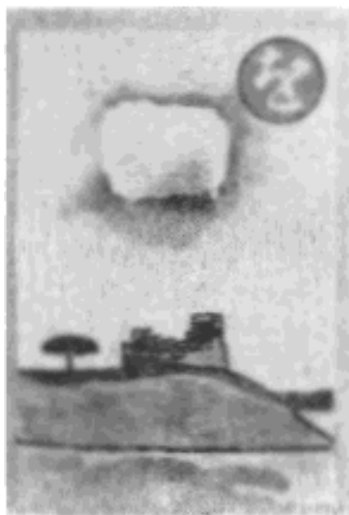
るりやこまどりをもけ
ばち、は、がこひしい。





をのやうにあに

をかのやうにふる





わからずやにつける薬
はないか。

わからずやにつける
くすりはないか。





腎、搦は黒く化粧する。

かしこいからすはく
ろくげしやうする。





好いお客は後から。

よいおきやくはあと
から。



た

竹のことは竹に習へ。

たげのことはたげ
にならへ。



礼

零點か百點か

れいてんかひやく
てんか





空そら飛とぶ鳥とりも土つちを忘わすれず。

そらとぶとりもつち
をわすれず。





つんぼに内うち護ご話わ

つんぼにないしよ
ばなし。





猫には手世。

ねこにはてまり。





なんにも知らない馬鹿、
何々かも知つてゐる馬鹿

なんにもしらないばか、
なんにもかもしつてゐる
ばか。





蠟燭は静かに燃え

らうそくはしづか
にもえ





秘を聞け。

むねをひらけ。





瓜は四つにも輪にも切られる。

うりはよつにもわにもきられる。



わ

猪の尻もちつき。

おのし、のしりも
ちつき。





のんきに根氣。

のんきに「んき」。



お

玩具は野にも島にも

おもちゃはのにも
はたげにも。





草餅くさもちになる。

くさもちもちになる。



や

藪から棒

やぶからぼう。





誠言は残る。

まこととはのこる。





決心一つ。

けつしんひとつ。





不思議な御縁

ふしぎなご縁





揚樂の澄む時、心体の
廻る時。

こまのすむとき、しん
ぼうのまはるとき。





杖葉より楳元

元だはよりねもと





手習も三年

てならひもせん
ねん





費券の口に戸はたてら
られず。

あふむのくちにと
はたてられず。





アール・アール

アール・アールのアール・アール





猿の風情、朝顔の心。

きくこのふぜい、あせ
がほのこころ。





雷がふれば犬でもうれ
しい。

ゆきがふればいぬで
もうれしい。





めづらしからう、面白
からう。

めづらしからう、
おもしろからう。





目を貸して手を借
りられ。

み、をかしててを
かりられ。





仕合せの明後日

しあはせのあそつて。





笑顔は光る。

魚がほはひかる。





日ひ和わに足た駄だばき。

ひよりにあしたばき。





持らつ持たれつ。

もちつもたれつ。



せ

蟬はぬけがらを忘る。

せみはぬけがらを
わする。





西瓜丸裸

すおくわまるはだ
か。



青空文庫情報

底本：「藤村全集第九卷」筑摩書房

1967（昭和42）年7月10日発行

初出：「藤村いろは歌留多」實業之日本社

1927（昭和2）年1月5日

※絵札は岡本一平によります。

入力：かな とよみ

校正：杉浦鳥見

2020年2月21日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

藤村いろは歌留多

島崎藤村

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>